

決議案 提案理由説明 経済農林委員会



経済農林委員会委員長 福井県池田町長

す ぎ も と ひ ろ ぶ み 博 文

特に「令和の米騒動」とともに、農林海産物の価格高が騒がれていった日にあって、米や食料の大切さは語られながらも、その現場である、農山漁村の重要性と合わせて、農林漁業者の収入所得の現状については注目されたのか。

農山漁村、町村は食料の生産現場としてだけではなく、北から南、島じょ部にあって、気候や風土の違いを活かした営みがあります。

また、原発は元より、再生可能なエネルギーを供給するなど、食料の生産のみならず国を守る重要な地域ではないのか。

などから、供給者、生産者対消費者、都市対地方という構図では無く、共に支え合う「相棒」といった関係をもつて、全国民の幸福に寄与しようではないかとの意見から、この度、「農山漁村および農林漁業の振興と活性化を図ること」「食料、エネルギー安全保障に対する国民意識の醸成を図ること」

さて、経済農林委員会は15県、15名の会員によって構成されております。代表して、残る提案6項目について、提案理由を申し上げます。

はじめに、古くから「百姓は生かさず、殺さず」と言われておりましたが、我々、委員会では、これに真似て「基本法といふ、法は作りても、予算は、増えず」「町村が頼りです」と言ふども、興さず、殺さず」と皮肉を交えた、真剣議論の下、今回、6項目を「提案いたしたものであります。

「都市と農山漁村の共創社会の実現を図ること」など、6項目を「提案した次第であります。

何卒、主導的・理解の上、満場の「賛同をお願い申し上げ、提案理由とい